

DataKeeper for Windows リリースノート

Version 7.4.2

(Version 7 Update 4 Maintenance 2)

重要

本製品をインストールまたは使用する前に、必ずこのドキュメントをお読みください。
このドキュメントには、インストール時とその前後に留意すべき重要な項目に関する情報が記載されています。

はじめに

SteelEye DataKeeper Cluster Edition (DKCE) は最適化されたホストベースのレプリケーションソリューションとして Windows Server 2008/2008 R2/2008 R2 SP1 Failover Clustering および Windows Server 2003 Cluster Service とシームレスに連携します。Windows Server 2008/2008 R2/2008 R2 SP1 Failover Clustering の機能である、サブネットを経由したフェイルオーバーや調整可能ハートビートパラメータにより、管理者が地理的に分散したクラスタを管理するのが容易になります。SteelEye DataKeeper は、両方のバージョンの Windows Clustering を拡張するデータレプリケーション機能により、共有されないディスクの高可用性構成をサポートします。

SteelEye DataKeeper Cluster Edition をインストールすると、DataKeeper ボリュームと呼ばれる新しいストレージクラスリソースタイプを使用できるようになります。この新しい SteelEye DataKeeper ボリュームリソースを従来の物理ディスクの共有ストレージリソースの代わりに使用することで、マルチサイトクラスタとも呼ばれる地理的に分散したクラスタが可能になります。

SteelEye DataKeeper Cluster Edition v7 の新機能

機能	説明
このリリースの新機能	
全体的なメンテナンス	以下の バグの修正 を参照。
DKCE バージョン 7.4 の新機能	
ボリュームのサイズ変更	DataKeeper で、ミラー設定を保持したままボリュームのサイズを変更できるようになりました。
サービス ID およびパスワードの選択機能の強化	DataKeeper は、DataKeeper Service Log On ID and Password の強化された選択機能による認証接続をサポートします。

機能	説明
CHANGEMIRRORENDPOINTS の強化	DataKeeper の CHANGEMIRRORENDPOINTS コマンドが 3 ノードに拡張されました。
SQL Server 2012	DataKeeper は SQL Server 2012 を実行する Windows Server Failover Clusters をサポートするようになりました。
DKCE バージョン 7.3.1 の新機能	
DataKeeper コア	全体的なメンテナンス
DKCE バージョン 7.3 の新機能	
DataKeeper コア	全体的なメンテナンス
DKCE バージョン 7.2.2 の新機能	
LifeKeeper 7.2.1 との互換性	DataKeeper 7.2.2 は LifeKeeper 7.2.1 と互換性があります。
DKCE バージョン 7.2.1 の新機能	
Windows 2008 R2 SP1 のサポート	バージョン 7.2.1 から、DataKeeper は Windows 2008 R2 SP1 をサポートします。
64 ビット パフォーマンスモニタカウンタ	SteelEye DataKeeper パフォーマンスモニタカウンタは、64 ビットと 32 ビット両方のパフォーマンスモニタアプリケーションで使用できます。
LifeKeeper 7.2.1 との互換性	DataKeeper 7.2.1 は LifeKeeper 7.2.1 と互換性があります。
セクタサイズの拡張	セクタサイズが 512 バイトに等しくないディスクがサポートされます。
ドキュメント	SteelEye DataKeeper for Windows のインストール、設定、管理、およびトラブルシューティングについて説明した関連ドキュメントは、 SIOS Technology Corp. ウェブサイト の Documentation セクションで参照できます。
DKCE バージョン 7.2 の新機能	
Microsoft Data Protection Manager のサポート	DataKeeper 7.2 は、Windows Server Failover Clustering 2008 上で Microsoft Data Protection Manager 2010 をサポートします。
Microsoft System Center Virtual Machine Manager のサポート	DataKeeper 7.2 は Microsoft System Center Virtual Machine Manager をサポートします。
WSFC での DataKeeper ボリュームリソースの自動作成	DataKeeper 7.2 は、ミラー作成時にリソースを自動的に WSFC 使用可能記憶域に割り当てることができます。
EMCMD コマンドの追加: CHANGEMIRRORENDPOINTS	DataKeeper 7.2 ではこのコマンドが追加され、DataKeeper によって保護されているボリュームをネットワーク上の別の場所に移動するのが簡単になります。

機能	説明
DataKeeper オンラインヘルプの強化	DataKeeper 7.2 のオンラインヘルプに「DataKeeper により、従来の 2 ノード構成の WSFC クラスタを 3 ノード構成に拡張する」というトピックが追加されました。
LifeKeeper 7.2 との互換性	DataKeeper 7.2 は LifeKeeper 7.2 と互換性があります。
サブスクリプションベースのライセンスサポート	DataKeeper 7.2 は、自動ライセンス更新オプションがあるサブスクリプションベースの期間限定ライセンスをサポートします。
File Server Resource Manager のサポート	DataKeeper 7.2 以降では、Windows Server 2008 R2 上で File Server Resource Manager を使用したディスククォータ機能がサポートされます。ファイルスクリーニングはサポートされません。
DKCE バージョン 7.1.2 の新機能	
MSCS/WSFC クラスタでの 2 つ以上のノードのサポート	Cluster Edition 7.1.2 から、DataKeeper は MSCS/WSFC クラスタで 2 つ以上のノードをサポートします。
共有ストレージと複製ストレージが混在したクラスタのサポート	Cluster Edition 7.1.2 から、DataKeeper は共有ストレージと複製ストレージが混在したクラスタをサポートします。
DKCE バージョン 7.1.1 の新機能	
Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2* のサポート	DataKeeper v7.1.1 以降では、Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2** をサポートします。 注記: Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 は SteelEye DataKeeper Cluster Edition v7.1.2 と互換性はありません (詳細については、DataKeeper オンラインヘルプの「トラブルシューティング」セクションの既知の問題を参照してください。)
DKCE バージョン 7.1 の新機能	
One-to-many replication configurations	DataKeeper 7.1 以降では、1 対多のレプリケーション構成をサポートします。
DKCE バージョン 7 の新機能	
Windows 2008 R2 のサポート	DataKeeper バージョン 7 は Windows 2008 R2 をサポートします。
Windows Server 2003 MSCS のサポート	DataKeeper バージョン 7 は、マルチサイトクラスタについて Windows Server 2003 MSCS をサポートします。
ファイル共有リソースタイプのサポート	DataKeeper バージョン 7 は、WSFC においてファイル共有リソースタイプをサポートします。
SteelEye LifeKeeper v7 との統合	DataKeeper バージョン 7 は LifeKeeper v7 と統合されました。
日本向けローカライズ	DataKeeper バージョン 7 は日本向けにローカライズされました。

バグの修正

以下に、最新のバグの修正および機能強化のリストを示します。

バグ	説明
3050	マルチターゲット環境でスイッチオーバー時に差分同期ではなく、全同期が行われる不具合を修正。
2835	共有ディスク環境でスイッチオーバー時にブルースクリーン(BSOD)になってしまう不具合を修正。
2447	情報として出力されるべきイベントログがエラーとして出力されていた事象を修正。
2430	アップグレードインストール時に表示されるバージョン表記を修正。
2977	仮想環境にて、保護対象かどうかにかかわらず、ディスクのボリューム削除後のシャットダウン時にOSがフリーズアップしてしまう不具合を修正。
2925	WSFCクラスター環境にて、クラスタディスクとしてDataKeeperのボリュームを使用した場合、MSDTCリソースがフェイルオーバーできなくなる不具合を修正。
2948	システム再起動時、全同期が発生してしまう不具合を修正。
2787	マルチターゲット構成で、1つのターゲットに対して複数のBitmap書き込みプロセスが発生する不具合を修正。
2679	DataKeeperの処理実行中にボリュームを削除するとブルースクリーン(BSOD)になってしまう不具合を修正。

製品定義とプラットフォーム

製品要件

製品	オペレーティングシステム	追加ソフトウェア
サーバ コン ポーネ ント	Microsoft Windows: Server 2008 Enterprise Edition または DataCenter Edition、32 ビットバージョンまたは 64 ビットバージョン、SP1 および SP2	Hotfix – KB 951308 http://support.microsoft.com/kb/951308 Hyper-V リソースを保護する場合 Hotfix KB 958065 http://support.microsoft.com/?id=958065
	Server 2008 R2/2008 R2 SP1 Enterprise Edition または DataCenter Edition 64 ビットバージョン	注記: これらの Hotfix は、Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2/2008 R2 SP1 には必要ありません。
	Microsoft Windows: Server 2003 Enterprise Edition、32 ビットバージョンまたは 64 ビットバージョン	なし
ユーザ イン ターフ エース	Microsoft Windows: <ul style="list-style-type: none"> • Server 2003 R1,R2 • Server 2008 R1, R2, R2 SP1 • Vista • XP • Windows 7 	Microsoft .Net Framework 3.5 SP1 MMC 3.0 (ダウンロード元: http://support.microsoft.com/kb/907265)

SteelEye DataKeeper Cluster Edition をインストールして設定する前に、以下の設定を確認してください。

- **重要:** DataKeeper を実行するすべてのサーバでローカル管理者権限を持ったドメインアカウントを使用することを推奨します。ローカルアカウントを使用している場合、ユーザ名およびパスワードは DataKeeper を実行するすべてのサーバで一致しなければなりません。これはすべてのエディションおよびすべてのプラットフォームに該当します。
- SteelEye DataKeeper Cluster Edition ソフトウェアをインストールする前に、Windows Failover Cluster 環境をインストールしてクラスタリソースを作成できる直前まで設定する必要があります。ファイル共有監視を設定してクォーラムモードマジョリティノードを変更するなど、地理的に分散したクラスタを管理するための Microsoft のベストプラクティスに従ってください。**DataKeeper Cluster Edition をインストールする前に基本的な Windows クラスタを設定しなかった場合は、DataKeeper Cluster Edition の修復インストールを実行してから DataKeeper クラスタリソースを作成する必要があります。**

Windows 2008 の要件

SteelEye DKCE を Windows 2008 にインストールするとき、以下に説明するようにシステム設定を変更するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。変更を許可しない場合は、インストールが終了してから手動で変更する必要があります。

- Windows Firewall
- **Distributed Link Tracking Client** を無効にする

さらに、Windows 2008 サーバがドメイン内にはない場合は、ローカルセキュリティポリシー設定 "**ネットワークアクセス: Everyone アクセス許可を匿名ユーザーに適用する**" を有効にする必要があります。サーバがドメイン内にある場合、この設定は必要ありません。

既知の問題

DataKeeper Cluster Edition テクニカルドキュメント既知の問題と回避策を参照してください。

DataKeeper Cluster Edition クイックスタートガイド

SteelEye DataKeeper Cluster Edition を利用するにあたってDataKeeper Cluster Edition クイックスタートガイドを参照してください。